

155 皎月原こうげつはら



指 定 市 名 勝 昭和53年 2 月1日
 所在地 小 田 井
 所有者 佐 久 市



皎月原は旧中山道（現主要地方道佐久軽井沢線）沿い、小田井宿と岩村田宿の中間にある。松の木立のある草原は、古くから皎月の輪に関する伝説があって、記録にも残されており、中山道における著名な名勝とされている。

伝説によれば、用明天皇元年（586）、皎月という官女がおとがめをうけて、佐久郡の平尾へ流されてきた。いつも白馬を愛していた官女は、ある時小田井の原へ馬をひきだして乗りまわしていた。ところが天の竜馬だった白馬は空へかけ上り、東西南北を駆けまわった後、平尾山の頂上に立ちとどまった。そこで官女は「われは唯人ではない。白山大権現だ」といって光を放って岩の中へ入ってしまった。その後、官女を白山大権現というようになった。

その後も権現様は時々小田井の原へきて、馬の輪乗りをした。そのあとには草が生えなかったので、そこを皎月の輪とよぶようになったというのである。ほかに「村上家伝」の村上基国の伝記には、異説が載っているという。

- 参考資料
1. 「夢想皎月記」 享保 7 年
 2. 「千曲の真砂」 宝暦 3 年
 3. 「木曾路名所図絵」 文化 2 年